

令和5年度 調布市立八雲台小学校 学校経営計画（学校長 上田 義孝）

学校の教育目標		
○よく考える子 (問題を発見し、教科等横断的な視点で 解決に向かうことのできる子ども)	◎思いやりのある子 (命の大切さを自覚し、互いのよさや違いを 認め合うことのできる力を身に付けた子ども)	○健康な子ども (自分から心や体を鍛え、進んで 運動に取り組む子ども)

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

一人一人の児童が安心して通うことができる学校
 ◎日本国憲法等に示された人権尊重の精神を基調とし、平和を愛し、地域社会や国際社会において信頼と尊敬を得られ、徳・知・体の調和のとれた成長と、国際化、情報化の進展など、社会の変化に主体的に対応できる力を身に付けることを目指して、調布市教育プランに沿って、上記の目標を定め、その達成を目指す。

将来の日本及び国際社会の担い手として、児童に豊かな人間性・社会性を育成し、確かな学力の定着を図り、運動に親しませるなど生涯を健康に過ごすための素地を培う。そのためには、児童一人一人が「学校に来ると安心する。」と思えるような学校づくりを目指したい。学校は児童にとって「安心できる場所」であるべきである。「安心」というのは教員からも児童間でも、自分の存在価値を認められることである。そのためには、自分の目標をもって真剣に学習や学校生活に取り組みせ、困難を乗り越え、達成感を味わわせたい。そして、その経験を通して、児童一人一人が自己の成長を実感できるような学校を目指していきたい。

ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	○自分自身の気持ちをきちんと相手に伝えることができず人と関わるスキルが未熟な児童も見受けられる。自己肯定感・自尊感情の育成が課題である。いじめや不登校の課題も解決していく必要がある。 ○学力面では、全体として基礎的な知識・技能についての定着は良好であるが、活用・応用や思考力の育成に課題がある。また、個々の児童を見ると、特に算数では学力分布の2極化傾向があり、下位層の児童の学力向上が課題である。このため、学校全体での授業改善の取組が不可欠であり、UDや特別支援の考えを用いて、学習指導要領の目指す理念を実現しようとする取組が求められる。 ○体力や健康面では、基礎体力の向上と、特に運動に対する意欲の向上と心身の維持管理意識向上が課題である。 ○教員一人一人の指導力・授業力・諸対応力を高め、組織として授業や保護者に対応する組織力の向上が課題である。
-------------------------	--

中期的な経営目標

- 1 心の教育の充実に向け、児童相互の良好な人間関係を確立させ、自他を尊重する心と態度の育成を図る。
 - 2 基礎的な知識・技能の定着を基盤として、思考力・判断力・表現力を育成し、確かな学力を定着させる。研究発表会を通して教員の授業力向上を図る。
 - 3 体力向上・健康教育の充実に向け、生涯を健康に過ごすための素地を育成する。
 - 4 地域の教育力、地域の人材を生かした教育活動を展開し、地域の伝統や人々に触れさせ、地域への愛着を育てる。共に子どもを育てる意識を保護者・地域と共有する。
 - 5 豊かな情操と温かい人間関係を醸成する教育活動を行い、異校種交流や異学年交流等を充実させ、思いやりのある行動を意識付ける。
- 人・組 教科指導の系統性を踏まえた授業ができる教員を育成する。在籍学級の指導と通級指導が連続性のある指導になるよう教員間の連携を密にする。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 学年集会を定期的に行い規範意識を育てるとともに道徳性を高める。	① 全学年で交換授業を行い、わかりやすい学びを提供する。	① 運動量を確保した体育科授業の実践を積み重ねる。
② 個別指導計画を活用し、特別な支援を要する児童の理解と対応、個別最適な授業づくりに努める。	② モバイル端末を効果的に活用し、共同的な学びの授業を行う。	② 学級遊びの充実を図り、休み時間に全校児童が外遊びをするようにする。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 道徳の時間等、心の教育の充実に向けていると肯定的な回答 90%を目指す。	① 勉強が分かると肯定的な回答 90%を目指す。	① 接触場面を減らす工夫をした運動を取り入れながら運動量を確保する。
② 友達に優しくしていると肯定的な回答 90%を目指す。	② 全教員が1日1回以上、ICT機器または児童用タブレットを活用した授業を行う。	② 1日1回は全校児童が外遊びができるようにする。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 保護者・地域との連携	5 特色ある教育活動	6
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 地域コーディネーターを有効活用し、地域学校協働本部の活性化を図る。	① 特別支援学校との交流、副籍交流の活動を確実に行う。	②
② 学校ホームページの更新頻度を高め、児童の様子を保護者・地域と情報共有できるようにする。	② 国語科を中心とした指導の工夫を、全教員で取り組み、研究発表会を実施する。	②
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 地域組織と連携して子どもの健全育成に努めていると肯定的な回答 90%を目指す。	① 感染防止対策を講じて、年1回以上直接または間接交流を行う。	②
② 情報発信をしていると肯定的な回答 90%を目指す。	② 研究発表会に向け6回の研究授業を行い、授業力を高め、当日は全学級の公開授業を行う。	②

人材育成・組織運営

○交換授業により、教員一人一人の授業力向上を図るとともに学年における指導の統一を図る。
 ○学年集会を定期的実施することで、学年運営を円滑にすすめるとともに、全体指導の指導力を高める。
 ○校内委員会の充実を図り、いじめにつながる事案の早期解決を図る。また、児童の特性を見極めた通級指導への適切な接続をすすめる。